

## 日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

機械・システム工学科 原子力安全工学コース 川崎大介

この度は優秀教員に選ばれて大変光栄です。投票して下さった学生さんに感謝申し上げます。私の教育の工夫について書くにもおこがましく思いますので、この機会に私が教育において苦労したことを聴いていただければ幸甚です。

今年度の3年生には、1年次前期の「微分積分I」と3年次前期の「リスク評価概論」という授業で主に接する機会があったかと思います。どちらも数学の定理や公式が山ほど出てくる授業で、苦手意識をもつ学生さんも少なくないのではないかと思います。このような授業で私が毎年悩んで試行錯誤しているのが、いかに受講生に講義についてきてもらうか、また、いかに本質を理解してもらうかという点です。私が福井大学に着任した当初、複雑な数式の展開の説明をしていると、受講生は暗い表情をしているか諦めた顔になっているかのどちらかになりがちでした。以降、もっと分かり易い説明方法はないかと、毎年、講義資料を少しずつ改善してきました。形式的に数式を追うよりも、図やアニメーションを用いることによって、いろいろな角度からその数式の本質的な意味を捉えてもらうように毎年少しずつ拡充しています。

その他、授業の悩みはいろいろとあります。私は一所懸命になって講義をしているのですが、ふと気づくと受講生がついてこれなくて、あまりにもつまらなさそうにしたりします。その対策として、受講生がリフレッシュできる時間を設けるために、授業中に「雑談」と称して歴史上の偉人の逸話などを紹介したりしています。また、授業のメリハリをつけるために、受講生の関心を引くようなクイズを出したりもしました。拡散現象や放射性崩壊による放射能の減衰について確率過程のモデルと結び付けるために、授業中にじゃんけん大会をしたりもしました。私としては、受講生の関心を掌握しつつ、授業の本題に対する集中力を回復してもらうべく、このような雑談を設けるのですが、当の受講生にとってどの程度の効果があったのかは聞いてみたいところです。確率論に関連した有名なパラドックスなども雑談やクイズとして紹介してきましたが、近年は既に話を知っている学生も多くなってきているように感じています。もっと私もネタ集めをしなければなりませんね。

最後に、受講生の要望に応えられない事柄に対する言い訳をさせていただきます。授業の最初に宿題の解説をするのですが、宿題の通信欄に「問〇〇がわかりませんでしたので解説してください」という書き込みが多いとともに、逆に「宿題の解説はもっと短くて良い」というコメントもいただきます。こうなると、受講生全員の要望に応えるのが難しくなってきます。どうにか、冗長な説明にならないように要点だけに絞って解説しようと思ってきましたが、この関連のコメントは毎年いただきますので、私にとっては永遠の課題です。

このようにまだまだ改善しなければならぬことが沢山ありますので、さらに分かり易い授業ができるように、努力していきたいと思っております。